

## 令和7年度 珠洲市復興まちづくりに係る意見交換会 協議記録

日 時	2025年8月18日(月) 18:00~19:50
場 所	宝立小中学校 体育館

参加者: 150名

### 【開会のあいさつ】

多田区長会長:

これまでは復旧・復興の基本計画のための意見交換会や、まちづくり協議会で意見を出しながら議論を進めてきたが、今回は「新たなまちのかたち」であり、一步踏み込んだ提案がなされるかと思う。まちの復興が加速的に進むよう意見交換を行い、一つでも前進できるようになれば有意義な会になるよう、願います。

市長:

発災から1年8ヶ月近くが経った。昨年9月には豪雨災害が重なり、先日も大雨による被害があった。特に宝立町においては、旧見附ドーム駐車場の応急仮設住宅が、今回も浸水した。二度にわたる浸水、ご迷惑をおかけいたしましたこと、改めて心からお詫び申し上げます。現在、石川県と連携し、できるだけ早く排水対策が進むよう取り組んでいる。こうした厳しい状況の中、暑い中、お忙しい中、皆さんお集まりいただき、心から感謝を申し上げます。

宝立町においては、8月2日に宝立七夕キリコ祭りが復活した。「ここから立ち上がる」そんな思いのお祭りだったのではないかと思います。皆さんの宝立町の復興にかける思いに応えるため、必ず成し遂げていく。

本日は、特に復興公営住宅をどこにどんな形で整備をしていくか、そして道路の拡幅や橋の架け替え、春日野においては海岸堤防の整備も計画している。昨年の6月、8月、12月に皆さま方から頂戴したご意見、ご要望については、お配りしている資料に、「まちのかたち」として取りまとめている。加えて、道路の拡幅、復興公営住宅の建設の場所を示し、ご意見を頂戴したい。金峰寺においても、復興公営住宅のご要望をいただいている。復興公営住宅については宝立町において概ね165戸のご要望をいただいている。見附の坂さんの応急仮設住宅が135戸、鵜島の木造タイプの応急仮設住宅が15戸あるため、この150戸については賃貸住宅として転用が可能である。それも含め、ご要望の165戸を上回る計画はできているが、改めてご意見をいただきたい。

全体では、住宅の1/2が解体である。特に鵜飼・春日野地区の被害が大きく、鵜飼において住宅の61.8%、春日野において66.6%が解体である。解体の進み具合は、宝立町において89.9%、おおよそ90%の解体が完了している。この辺りにこういう施設ができないか、復興公営住宅ができないかなど、そのようなことも考えやすくなっているかと思うので議論していただきたい。

### 【資料説明】

資料1 復興方針図

資料2 復興まちづくり計画図

資料3 下水道復旧

## 【参加者からの意見】

### 参加者：

資料2、4ページと8ページの箇所であるが、柏原新橋および柏原橋は復旧工事に着手しないのか。また、柏原から助政へ行く市道（昔の農免道路）は8ページでは緑色であるが4ページは青である。どちらが正しいのか。

### 珠洲市：

柏原橋と柏原新橋の着手時期であるが、両橋梁とも今年の11月から着手し、令和8年の5月に修繕完了予定である。市道については令和8年度に着手予定である。

### 参加者：

市のホームページに掲載されている津波や土砂災害のハザードマップであるが、震災前の情報かと思われる。鶉飼・春日野地区の浜手は津波の範囲に入っているが、山手は土砂災害があり傾斜地は昨年の地震以降、かなり大きな亀裂があちらこちらに入っている。雨の時に山が崩れた箇所も複数ある。これから住宅の再建を考える際に、地震前のデータでよいのか、それとも新しい情報が出るのか。

### 市長：

現在、石川県でハザードマップを見直し中である。それを受けて、各区域の変更を進める予定である。ただし、未だ危険な箇所はあるため、そのような箇所の対策については迅速に進めていく。

### 珠洲市：

津波については石川県のほうで、波、地震の揺れ、被害の程度に関し、学識者と取りまとめを進めている。津波の高さが変わるようであれば県から各市町に案内があり、それをもとにハザードマップを修正し皆様に配布する。土砂災害についても、赤色で囲われた土砂災害特別警戒区域、こちらについては建物は建てることのできない区域であり、現在ある住居も確認申請が下りない規制区域である。石川県知事が指定する区域であるが、まずは災害関連で壊れたところを優先して復旧しており、その後、現地調査をした上で、新たに指定する区域等を定め、公表することになっている。そのため現段階では、この区域がどうなるかなどは明言できない。指定された区域に建てる際には、市役所や石川県の土木部にご相談いただくようお願い申し上げます。

### 参加者：

現在指定されていないところでも危ないところは今後調査するが、壊れているところの復旧から進めているということでしょうか。

### 珠洲市：

そうである。

### 参加者：

復興公営住宅について、宝立で165戸の要望があると説明があった。見附に130戸程度、鶉島に10数戸、賃貸住宅に転用可能な仮設住宅がある。そうであれば、宝立地区に15戸しか新しい公営住宅を建てる予定がないのか。

**市長：**

現時点で意向調査を踏まえると、必要戸数は165戸である。賃貸住宅に転用できる戸数が150戸であり、候補地に公営住宅を建てると、概ね47戸建てられる。165戸に対して197戸用意できる。ただし、賃貸住宅については、対象となる皆さん全員が、この賃貸住宅を利用するわけではないと思われる。宝立地区以外から入居される方もいるかもしれない。そのような点を再度意向調査を行い対応していきたい。

**珠洲市：**

市長からの説明の通り、現時点では165戸必要であり、仮設住宅の転用戸数は150戸程度である。それは市全体の必要戸数700戸の内数である。意向調査の結果を踏まえ新設する数を定めていきたい。現在検討中の予定地と候補地を合わせると十分な戸数が整備できるため、用地確保については心配ないかと思う。

**市長：**

おそらく気にされているのは、予定地はあるが、そこではなく、ここに建ててほしい等の要望に、今後応えられるかどうかということではないか。

**参加者：**

宝立で165戸の公営住宅希望者がいらっしゃる中で、見附に135戸と鶴島に15戸、合わせて150戸とすると、15戸しか希望が通らないのではないかと。

**市長：**

そういうつもりではない。再度10月に意向調査を行う際、宝立の方がどこの復興公営住宅への入居を希望するか、詳細に調査したいと思っている。

**参加者：**

見附にそのまま住むのは嫌だから、違う場所の復興公営住宅に住みたいという要望も通用することか。

**市長：**

意向調査では、どの復興公営住宅を希望するのかお聞きする。そのためにも、適した候補地があれば、今のうちに出していただくとありがたい。

**参加者：**

集合住宅ではなく戸建ての方がよいという話はよく聞く。戸建ての要望があれば対応するのか。

**珠洲市：**

皆さまのニーズに対し過不足なく計画的に整備することが前提である。都市計画区域内の内浦エリアでは、土地を有効活用するため3階建てから4階建ての共同住宅タイプを基本としている。また、津波浸水想定区域内においては、津波対策として1階分をピロティという吹き抜けのような形としたい。戸建てを整備することは大変難しいが、皆さまのご意見としてご希望があれば引き続き検討する。

**参加者:**

土地の有効活用が理由とのことであるが、今後、空き地が増える。公営住宅整備に協力いただくことができる場所が用意できれば、3階、4階建ての団地タイプではなく、戸建てでも対応していただけるのか。

**市長:**

基本的に内浦側は長屋タイプか共同住宅であるが、おそらく皆さんのニーズは戸建ての方が大きいと思う。どこまで皆さんのご要望にお応えできるかということである。用地が少なく希望の方が多いとどうしても共同住宅のタイプになるが、用地も色々あるのではないかと、戸建ても可能なのではないかとご意見だと思われる。後々、市営住宅・公営住宅になるため、メンテナンスや管理のことを考えると、集合住宅・長屋タイプが望ましい。どこまで皆さんのご要望にお応えできるか、考えていきたい。

**副市長:**

10月1日から再度アンケートを行う。これまでも何回かアンケートを取ってきたが、全員が正確な答えを出せる状況にはなかった。結果として推測で700戸、宝立は165戸という数字であるが、最終的には必要な面積と希望される戸数のバランスによって整備内容が決まる。皆さん戸建てを希望されるが、用地が本当に確保できるのか、内浦側においてはなかなか厳しい状況である。登記上の問題、相続の問題等もあり、仮に空いていても用地取得に3年、5年と要すると整備が遅くなる。総合的な判断を10月のアンケートで聞き、年末までには取りまとめたい。そのためには皆さんに現段階の正確な意思表示をしていただかないと難しくなる。

現段階でも宝立には4、5箇所の候補地があり、40～50戸は整備できそうだ。一方で、家賃の問題がある。4年目以降家賃が上がるような方々のために賃貸住宅を用意したい。賃貸住宅135戸が既に宝立にあり、加えて鶴島にも15戸ある。何十年も暮らすには狭いが、世帯人数が少なければそれなりに暮らせる。まずは皆さんがどの場所に、どれくらいの世帯、人数を希望されているのかをしっかりと把握することが最優先である。それにより必要な戸数が分かる。あとは、家賃がいくらになるのかもお示ししないと、最終的にどこに何戸どう整備するかは決まらない。今はまず候補地を測量しニーズに応えられるように準備を進めているが、最終的には皆さんの正確な答えが集まれば集まるほど、早く整備着手できるという状況にあることをご理解いただきたい。

**参加者:**

話が変わるかもしれないが、鶴飼海岸の河口から港橋までの間、堤防整備の計画が無いように見える。これまでの意見交換会でも説明がなかったように思う。これは七夕キリコ祭りも再開できるように、考えているのか、あるいは通り沿いの住民の再建の意向の話が出てこないからなのか。

**珠洲市:**

この資料は市が実施する事業を主に載せている、お話のあった鶴飼海岸から港橋の間の二級河川鶴飼川の堤防は、川も含め石川県が管理している。堤防は地震が原因で下がっており、ブロックも壊れているので、復旧は石川県が行う。時期については、今後確認し記載する。

**参加者:**

道路を拡幅することは、整備が進むので良いと思っている。ただし、道路に隣接する用水の改修、用排水路の改修、あるいはその他のもの（側溝等）の改修も合わせて実施いただきたい。道路だけ良くて

も、それに付随するものが一切整備されないと、豪雨の際のように水が上がってしまう。

もう1点、復興公営住宅の予定地と候補地の違いは何か、ここに挙げられているような資料が、先日議会説明で9月末までに全体に知らせるといった答弁があったものかと思う。詳細なデータに基づく説明を願いたい。

**市長：**

復興公営住宅の全体計画について、来月中に示せるように動いていきたい。現時点では700戸が必要で、その700戸をどこにどのような形で整備するのか、9月中にお示ししたい。それを踏まえ意向調査を行い、また調整をするという段取りになるかと思われる。道路の拡幅に合わせ、排水路はもちろん水道管、場所によっては消雪装置もある。それぞれ復旧していくと二度手間、三度手間になるため、エリアを区切って整備を進めたい。道路の復旧・拡幅に合わせ排水路もきちんと整備する。

**珠洲市：**

復興公営住宅の予定地と候補地の違いであるが、予定地については既に土地の測量に入っており、最も確度の高い敷地である。候補地については今後さらに検討が必要な場所である。

**参加者：**

予定地というのは、地区の方から無償提供があった場所であるか。候補地とは、地区の希望はあるが総合的に判断して決めたいという思いでそうしているのか。

**珠洲市：**

土地は無償ではなく有償で市が買い取らせていただく。地元から無償提供があったから予定地、そうでなければ候補地という分類ではない。地元の要望があり調査を進めている場所は予定地扱いである。春日野辺りの旧国道から下の場所は、正確に何世帯が入りたいか分かっていない。それが正確に分かれれば、はっきりしたことが言える。春日野の場所は説明にあった通り、1階を駐車場にしないといけない。津波がかかった場所である。そこを希望する人が本当にいるのか、10戸程度のニーズがあるのかを確認しないとスタートできない。春日野で言うと旧酒井工務店の敷地を優先して整備を進める方針である。10月1日からのアンケート調査の集計において、必要であれば候補地が予定地が変わっていくかと思う。

**参加者：**

旧国道249号が拡張になっているが、どれくらい拡張されるのか。新しく家を建てようと思っており、道が広がると大変である。

**珠洲市：**

旧国道249号は広げる予定はない。資料1については昨年度末に地域の方からご要望いただいた内容を記載しているものになる。

**参加者：**

旧酒井工務店の公営住宅予定地であるが、周辺の方々から、土地を提供しても良いと聞いている。例えば、周辺の所有者の方を訪問し、「復興公営住宅の予定地を、倍くらいにできないか」という話を進めてもよいのか。戸建てを希望する方が多く、3倍くらいの用地が必要だと思う。住民で話し合って予定

地をできるだけ広げるように動いてもよいのか。予算の関係もあり、行政とすれば（戸建ては）建築費が高くなるため高層でやりたいというのが本音かと思う。市長さんの考えでは、内浦内陸部はできるだけ高層化していきたい考えだと思う。しかし、地域で戸建てを希望される場合、用地が確保できれば対応したいという説明もあった。

もう一点、市長さんが議会で、復興公営住宅は令和9年度、10年度、11年度に着工すると答弁されていた。着工まで4年、5年かかることになる。予算の関係なのか、用地の問題なのか、その他に理由があるのか。もう少し早くやっていただけないかという思いだ。新聞報道では、他の自治体は今年度着工、来年度完成、来年の春から入居申し込み受付のところもある。

**市長：**

着工ではなく、完成予定が令和9年、10年、11年度である。ただし、可能な限り早く整備してまいりたいと思っている。用地の問題などが整えば前倒ししたい。

**副市長：**

「用地を用意すれば、全て戸建てで整備してくれるのか」という趣旨の質問だったと思うが、理屈上はそうである。ただし、どこまで早いタイミングでまとめられるのか、全部地元でやっていただけるのか、難しいところがあると思う。区長さんを通じて個別に話をさせてもらった方が良いかと思う。理屈上は土地さえあれば整備はできる。戸建てが費用が高く、RC（鉄筋コンクリート造）の複合階が安いということでは必ずしもない。そこは面積と皆さんが希望される戸数とのバランスで最終的に決定されていく。

**副市長：**

春日野地区の海岸堤防の話で、高さが約1mになるという話があった。私の家も目の前である。七夕キリコ祭りがあるのに堤防を作ったらどうなるんだという話もあれば、堤防がなかったらこんな所に住まれないという話もあった。作らなくても良いという雰囲気のことをおっしゃるのは男性が多い。女性の声はあまり聞こえていないが、聞くと不安だという話はある。去年から、もう少し検討しようということですと来ている。そろそろ方針を決めないと、作るにしても時間がかかる。そんな簡単ではない。大きなお金もかかる。行政としては現在、先ほど説明した通り、整備するつもりでいる。もし、「いやそうじゃなくて、いらぬ」とか「こんな理屈でそれはこうだろう」というご意見があれば、今日ぜひ聞かせていただきたい。特にご意見がなければ堤防整備を進める。

**市長：**

般若川の河口復旧に関しては、橋の架け替えもあるが海側も同様に被災しているため石川県の方で災害復旧を進める。

**参加者：**

先ほど副市長の話にあったように、これまで堤防に関し漠然とした話になっていたが、本日は区長さん方もきていますので、同意を得られるのではないかと思います。

**参加者：**

個人的な意見であるが、海岸堤防はあまり必要性を感じていない。海沿いに砂がどんどん溜まっている。それも一緒に考えてもらいたい。河口は少し形が変わっている。

**副市長:**

私が言いたかったのは、砂がついているかいないかではなく、津波や高潮が来た時にどうするのかという話である。私は、あそこに60年余りいるが道を越えて波が来たことは今回の津波以外はない。個人的にも自分が生きている間は津波は来ないだろうとは思っている、それでもこればかりはどうなるか分からない。最近の台風の動きや高潮はこれまでの経験とは違ってきている。砂がついてきて、昔より浜の幅が広がった。一般的な海岸侵食対策は必要ないと思う。高潮、場合によっては数十年から百数十年に一度の津波対策として、4、5m浸水した事実を確認していることから、整備するのが一般的な考え方ではないかと思っている。もしそうではないというご意見があったら、ぜひお願いしたい。

**参加者:**

関連するが、二級河川鵜飼川について伺いたい。去年は約400mm、今年は370mmか380mmの雨が降ったが、基本的に河川は原形復旧になるかと思う。ただし、原形復旧をしても400mmの雨には耐えられないのではないか。昨年、田んぼに砂が入り、3月から4月で砂を取っていただき、作付けした。今回、8月10日の雨で砂が入った。2年続けて400mm近い雨が降るということ、河川管理者の県土木課も想定していないのではないかと。市役所から県の土木課に、断面的なものを再検討していただくようお願い頂きたい。

**副市長:**

技術的な話について、お答えしたい。鵜飼川もそうであるが、蛸島川は町の中を流れており、蛸島地区の住民の方からも強い意見がたくさん出ている。石川県土木課にも入ってもらい、これまで時間50mmとか60mmで計算していた河川断面を時間100mm、120mmで計算できるのか検討した。計算はでき、構造物も計画できるが、莫大なお金と時間がかかるという結論であった。当然住民にも決断をいただくことになる。例えば土地を明け渡してもらうなどである。蛸島地区ではその話だけで住民説明会・意見交換会を開催している。結果的には「そうしよう」ということにはなっていない。これは必ずしも能登半島・珠洲の話だけではなく、日本全国、もっと言うと世界かもしれないが、100%自然災害を防ぐことはもう無理である。いかに減災し、いかに被害を最小に留めるかという方法を追求していくしかない。想定される雨量に対し、どのような対策を行えば対応できるかという答えは、理想論的には出る。しかし、実行可能かについては、予算の問題や様々な課題があって現実的ではないというのが、国の感覚である。100%にできないというのは国全体としての見解のようだ。

**市長:**

気象、雨の降り方自体が変わってきていると皆さんも感じていると思う。これまでの考え方で良いのかというのは、国に対してしっかりと要望していきたい。

**参加者:**

堤防の開口部は、おおよそ何mのものを、何か所程度考えているのか。

**市長:**

今後、国と協議しながらということになるかと思う。

**参加者:**

階段をつけて、人が登れるところは作るのか。

**市長:**

高さが1m程度のため、必要かどうかも含めた検討になる。

**副市長:**

国としてはそのような具体的な話をしたいが、自治体の方針が決まらないため、できない状態である。市の担当課としても話を進めたい。整備の可否を、今日は確認したかった。

**参加者:**

いざとなった時の緊急車両の通行について、整備された道路がない場合、ゆっくり緊急車両が進む。それではいけない。道路状況を職員が巡回し、緊急車両が少しでもスムーズに進めるようにしていただきたい。そういう細かいところについても配慮をお願いしたい。

**市長:**

一部には、どこかに住む場所をまとめるとか、集中させるという話もあるが、私は市内全域においてしっかりと再生していきたいと思っている。緊急車両の通行も含め、復旧をしっかりと取り組んでいきたい。

**参加者:**

防潮堤の話であるが、今後どれくらいの方が残るか分からないが、一部の人しか残らないところに津波対策が本当に必要なのかと自分は思っている。個人的には堤防はいらないと思う。対象の住民にアンケートを取ったら良いのではないかと。国の大きい予算を組んで、誰もいないところに防潮堤のようなものを作るよりも、もう少し違う災害対策に費用をかけるべきだ。

**市長:**

春日野については海岸堤防は国の方での整備となるので、堤防が整備されることにより、ここで家を建てよう、新たな方が新築したいなどの動きも出てくるのではないかと。これだけの津波被害があつて、海岸堤防も整備しないと、なかなか再建の意欲が、新たに土地を求めたいという方も含めて、難しくなるのではないかという思いはある。海が全く見えなくなるような3m、4mの高さではなく、海拔2.4m、高さ1mほどの堤防になるが、それでもやはり整備した方が地域としての安全性は確保できる。何とかご理解いただければと思う。

**参加者:**

ウォーキングコースの提案もあった、堤防を整備したら、そのような考えも難しくなるのではないかと。

**市長:**

今の状態は見晴らしも良い、ウォーキングしていても気持ち良いと思う。そこに海岸堤防ができると、やはり地域の風景が変わってくるだろう。それをイメージすると抵抗がないこともないと思う。安全性は確保した方が良いのではないかという思い。とんでもなく高い防潮堤のようなものであればストレスも感じると思うが、今予定しているのはそこまでの高さはない。ご理解いただければ進めたい。

**参加者:**

海岸堤防が必要か不要か、アンケートは取らないのか。

**市長:**

アンケートをできないこともないが、区長と調整しながら進めたい。

**参加者:**

津波の影響がどうだったのか、検証が分からない。鵜島方面では意外と津波がなかった。私の家も近くまでは来てたが、浸水は床までであった。鵜島はずっと堤防がある。堤防の効果があったのかどうかの検証もまた大事なことかと思う。内浦側は沈んでいるという話もある。今後、50年で30cm沈むという話も、ある学者の先生の発表の中にある。そういうことも考え、後世のことも考えながら行政が判断していくことかと思う。景色が変わったとかではなく、長期的な視点も大事だなと今話を聞きながら思った。区長を中心にまとめて、早急に判断しなければ実現できないと思う。

**参加者:**

見附地区も津波の影響があり、説明では40cm沈んでいるから直すと聞いたが、現在どういう形で40cmかさ上げするのか、工事は進んでいるのか。

**珠洲市:**

鵜飼漁港について40cmくらい下がっている。防波堤と船がつく物揚場、どちらも40cm、防波堤はもう少し下がっている。今ある防波堤の上に工事で元の高さにコンクリートでかさ上げする工事を行う。物揚場も、手前の物揚場の護岸の部分が少し傾いているため、前出しして40cmかさ上げする。工事内容を計画中であり、物揚場を先行したい。測量設計を発注する準備中である。工事自体は来年度以降になる。

**参加者:**

宇出津の焼肉屋さんが水に浸かるショックな出来事があった。津波も高潮も心配なので対応をお願いする。

**参加者:**

今日は「まちのかたち」をお話されていると思う。見附を中心とした宝立地区は観光の拠点でもある。それに対して寺井議員さんの答弁など色々聞いたが、見附の鳥居は元に戻すような話であった。現状では、以前見附の看板があったところにコンクリートの階段状のものがあり、これは何だろうと疑問に思っている。また、肝心の赤く塗られた鳥居が1本しか立っていない。観光の柱が1本になった鳥居では、観光地としてはあまりにも寂しく、せつかく赤く塗られたのと思う。これから見附をどのように整備するか、箱物だけを企画しても周りの観光地に魅力が必要である。芸術祭を絡めるのか、それとも別の観光政策を進めるのかお聞きしたい。

**市長:**

見附島であるが、能登路荘、見附茶屋については、しっかりと復旧していく。見附海岸のところも少し段差がついているが、そのあたりも復旧していく。渡り石については元に戻す。海の中の鳥居については、なかなか復旧事業に乗らない。地域の皆さんと相談しながら何ができるか考えていきたい。あと

は観光の再生をどうしていくか。見附島を元の形に戻せば一番良いのだが、こればかりは難しいという思いである。海の中の安全確保も進めていく必要がある。海の中の状況確認、必要であればその対策を、これから進めていかなければならない。お盆にはキャンプ客も結構いたようである。安全を確保していきたい。

**参加者:**

私は見附地区であるが、市長から「色々と地域の案を出してくれ」と言われた。地区の意見として、おばあちゃんたちの家を回りながら復興公営住宅で野菜を販売したり、津波を受けた地区のため、少し高い場所に、もしもの時の逃げ道となるような、少し高い階層の災害公営住宅整備の案を出した。これは区長さんの反応がなかったため案に載っていないのだろうか。個人の案は取り上げてもらえないのか。

**市長:**

そういうことではない。どんどん出していただければと思う。

**参加者:**

結構早く伝えたと思うのだが、見附地区には一切出していない。

**副市長:**

個人的なアイデアに関しては資料に反映していない。復興公営住宅に関しても、見附地区の総意として、誰かの土地でこれぐらいのものは何とかならないかという要望をいただければ、しっかり検討する。地域でぜひまとめていただければと思う。

**市長:**

復興公営住宅を高層化し、そこに避難経路を設けること、おばあちゃんたちが野菜を販売しながら観光に協力したいなど、そういった取り組みもまた色々と考えていきたい。これからも継続してよろしく願います。

**多田区長会会長:**

まちづくり協議会では公営住宅をどこに作るかという議論が中心であったが、護岸に沿ってウォーキングコースを作ろうといったアイデアも出ていた。今は、公営住宅をどこに早く作るかという議論が先行しているが、今後まちづくり協議会的なもので、そういうことも議論していただきたいと思う。今日も公営住宅が中心になった。春日野地区が中心であるが、これまでのアンケート結果で再建する人、公営住宅に入りたい人が分かり、最終的には10月からのアンケートで公営住宅の必要戸数が出ると思う。

公営住宅ができた後、生業（なりわい）の再建が必要だ。道の駅すずなりの近くで商業施設的なものできているが、宝立のまちづくりの中でもそういう議論は進めている。公営住宅も進めながら、全体的なまちづくり、例えば公園をどうするか、再建した戸建てと公営住宅とどうバランスを取ってどこにコミュニティを作っていくか等、これから議論していかなければならない。

私は宝立町の区長会会長もやっているが、鶴島地区の区長でもある。鶴島の見附に近い方の住宅もほとんど全滅である。そのあたりでも公営住宅に住みたいという方も出てくるのではないかと思う。そういう議論もまた鶴島で進めていかなければならない。

**市長：**

ここで復興公営住宅ができないかという候補地を挙げいただければと思う。

**参加者：**

朝日町であるが、資料1には公営住宅の候補地が載っているが、資料2では消されている。

**珠洲市：**

朝日町の復興公営住宅の候補地であるが、現在宝立地区の必要戸数の推計値が165戸である。現在、足りているので候補地のままであるが、10月1日以降の意向調査の結果、朝日地区で公営住宅が必要となればこの候補地を検討していきたいと考えている。候補地として消えたわけではない。

**市長：**

意向調査を踏まえ調整する。

**参加者：**

現在、木造の仮設住宅に入居されている方は、そのまま住み続けるということになるのか。

**市長：**

難しいと思う。現在、仮設住宅にいらっしゃる方は、何年かしたら出ていかなければならなくなり、坂さんの仮設住宅にいらっしゃる方は、そのまま住み続けられるということで良いのか。意向確認が必要であり、他の仮設に入居されている人と公平性を保っていく必要もある。しっかりと考えていきたいと思っている。

**副市長：**

坂さんの住宅は賃貸住宅として活用する。現在住んでいるからといって既得権のようにその人が最優先されるということではない。仮設住宅のため6畳、9畳、12畳タイプがあるが、それだけの広さしかないので、手狭だと感じる方も多いと思う。様々な事情で退去される方がいらっしゃるため、タイミングがいつかははっきり言えないが、公募をかける。復興公営住宅において4年目から家賃が上がるのはどうにもならない。そのため賃貸住宅に入りたい、見附に入りたいという声もある。一定の収入がある方、つまり4年目から家賃が上がりそうな方が特にそうであるが、公募をかけ条件が合えば優先順位的には、今入っている方を優先しながら入れていく。公募という形を取らざるを得ないので、一定期間経過してから入居することになると思う。部屋の構造上、壁が耐震壁になっているなど諸々の事情で、カーテンレールなどを取り付けるといった簡単なリニューアルをして入っていただく流れになるかと思う。

**参加者：**

6畳、9畳、12畳の広さは変わらないのか。

**市長：**

坂さんの住宅は、2つの部屋を1つにすること等はできない。広さは今のままになる。

**参加者:**

2部屋借りることはできないということだろうか。

**市長:**

可能性はある。可能性がないことはない。

**参加者:**

家賃の話を今日すると言っていたが、どうか。

**珠洲市:**

まだ決定事項ではないが、宝立第2団地の家賃は現在、1Kタイプ2万円、2Kタイプが2万5千円、3Kタイプが3万円と考えている。現在のコーポ晴気台の賃貸住宅の面積を按分した金額で設定している。

**市長:**

復興公営住宅ではなく、見附の坂さんの賃貸住宅の話である。復興公営住宅とはルールが異なる。多少変わる可能性もある。

**珠洲市:**

復興公営住宅の家賃についてご説明させていただく。珠洲市のホームページに、3月に策定した復興公営住宅整備方針が掲載されている。その中で家賃の目安をご案内している。45㎡程度の2DKタイプは月額1.3万円から3.1万円である。55㎡の2DKタイプは1.6万円から3.7万円。65㎡の2LDKの場合は1.9万円から4.4万円。75㎡の3LDKの場合は2.2万円から5.1万円である。家賃は広さや収入によって変わるが、概ねの目安はこの金額となる。一定以上の収入がある方は、4年後に一般的な公営住宅に変わる際、家賃が跳ね上がるのでご注意願いたい。

**副市長:**

今の話はこれまでも資料としてお配りしていたかもしれない、ホームページを見ても分かる。目安が1.3万円から2万円台と言われても、自分はいくらになるのか疑問かと思う。環境建設課に相談に来られると家賃を提示できるが、最終的には復興公営住宅がいくらで建設されたかによるため、今は正確な金額は出ない。一般的な建設費は分かっているため、普通はこれくらいになるという家賃は、皆さんの情報さえ分かれば知ることができる。もしホームページにアクセスできる方がいれば、世帯収入や課税情報が必要なため若干難しいが家賃の算出が可能である。ホームページへのアクセスが難しい場合は、環境建設課の公営住宅担当までお問い合わせいただくか、一度来ていただくと、皆さんそれぞれの家賃想定を出すことが可能である。

**市長:**

一斉に4年後に家賃が上がるということではなく、一定以上の収入がある方は上がるが、そこに至らない方は変わらない。誤解のないようにと思う。

**珠洲市:**

少しだけシミュレーションさせていただく。2人世帯、年金暮らしの70代夫婦の場合である。このページで黄色いところに情報を入力いただく。例えば、年金暮らしで一人目が220万円、二人目が60万円と入力した場合に、あとは世帯の控除額計算のところに入世帯人数を入れていただくと、世帯タイプというところがある。本来階層あるいは裁量階層かというところで、60歳以上の世帯なので裁量階層をプルダウンしていただき、2人世帯であれば2LDKになる。55㎡をプルダウンで選択していただくと、家賃の目安が出てくる。この場合、家賃想定が3年目は月1万5,800円、5年目も月1万500円と、あまり変わらない。右側の総支払額は、あくまで支払う合計金額になる。参考に見ていただきたい。

**副市長:**

今見てもなかなかピンと来ない。よく分からないと思う。説明会も随時開催したい。仮に第1団地の集会所で何月何日に家賃の相談会するということを設定いただければ、こちらから説明に伺う。

**珠洲市:**

迷われている方が多い。自分が建てたらどうなるのか、公営住宅に入ったらどうなるのか、この計算式が難しい。こちらの方で説明できるので、もしよかったら集会所でも公民館でも、お声かけいただければと思う。珠洲市役所復旧・復興本部の方にお電話いただければと思う。思っているより高くない。

**珠洲市:**

源泉徴収票や、収入が分かるものを持ってきていただければよい。お話を伺いながら入力していくことができる。お気軽にお声かけいただきたい。

**参加者:**

道路の関係で聞きたい。谷崎の箇所は片側交互通行になっている。この道路はいつから工事するのか。

**珠洲市:**

令和8年度に工事に着手する予定になっている。

**参加者:**

どのような工事になるのか。元の道路となるよう傾斜を直すのか。

**珠洲市:**

基本的には元の高さに戻す工事を予定している。道幅も同じである。道路台帳上の幅を予定している。来年度着手する。今、設計と測量を行っている最中である。

**参加者:**

やはり宝立にも人が必要だと思う、ぜひ若い学生さんがいる家族や小さなお子さんの方が家を建てられる時に、補助を充実してあげてほしい。人口を増やしたいが、何かできないだろうか。特に大学生がいるお母さん、子どものお世話が大変で、家を建てることさえ考えられないという方も結構多いのではないかと。そういう方たちを大事にしていきたい。

**市長：**

新築については珠洲市が独自に上乘せ支援をしている。子育て世帯の方については、上限額を 300 万円まで上げている。一般の方は上限 200 万円である。子育て世帯の方の経済的負担を減らせるよう、そして引き続き珠洲で暮らしていただけるよう取り組んでいきたい。また具体的な案があれば、おっしゃっていただければと思う。

**市長：**

今日の意見交換、ご説明については、春日野における護岸をどうするか、公営住宅の予定地、候補地について、道路の拡幅等、現状の予定を説明してきた。これから復興を進めていく上で、復興公営住宅をどこにどういう形で整備をしていくのか。そこを早く固め、具体的に進めていくことが何よりも重要である。戸建てを望む方が多いのは間違いないと思うが、そのようなことも含め、できるだけ早く固めていきたい。お示した予定地以外に、まだこういう場所があるといったことがあれば各区長さんを通じて、会長の方で取りまとめてお話いただければと思う。今日いただいたご意見、思ったよりも用地が手に入り戸建てでも十分対応できるのではないかとといった点についても、今後の意向調査を踏まえ、できるだけ早く決定していきたい。復興公営住宅を令和 10 年、11 年度ではなく、もっと前倒しでという意見も、ごもっともである。できる限り早く住まいをしっかりと整備していきたい。意見交換は、今日で全て確定し、これで終了ということではない。今後もこれからの宝立地区、宝立町の新たなかたちについて、ご意見、ご要望を挙げていただきたいと思います。できる限りの対応をしていきたい。

**参加者：**

今までの話とは違うが、治安が悪くなり不安だ。私の家の周りは全部更地になり 1 軒だけ家がある。見慣れない人がうろついたり、無言電話がかかってくる。友人と話をしても、皆さんそういう話がよく出る。パトロールをもう少し増やすなど、治安の面も考えていただけると嬉しい。

**市長：**

警察の方と色々と連携を取りながら対策を講じていきたいと思う。珠洲警察署の方も、おっしゃられたようなことについては十分認識されている。できる限りの巡回警らなども進めていただいているところである。具体的に本当に怪しいことがあったら遠慮なくご連絡いただければと思う。しっかりと対策に取り組んでいきたい。

まだまだ結論には至っていないところは、皆さん早く進めてほしいという思いもあると思う。今後も意向調査にご協力いただくようお願いする。それを踏まえ、できるだけ早く、特に復興公営住宅整備を進めていきたい。今後ともよろしく願います。

以上

日 時	2025年8月20日(水) 18:00~19:20
場 所	飯田小学校 体育館

参加者:38名

**【開会のあいさつ】**

泉谷区長会長:

元旦の発災以来、1年と8か月が経とうとしている。少しずつ、まちの様子も変わってきている。今日は、「新たなまちのかたち」の意見交換会であり、皆さまのご意見をお願いしたい。飯田町では、まちづくり協議会で話を進めている。主なところをお話ししたい。

飯田町の復興まちづくりの目標は、「珠洲の中心として人が集まり、楽しく過ごせるまち」を目指し、各種団体長や集まっていた方から意見をいただいている。

飯田港を復興の拠点としたいと考えており、飯田港埋立地に、日本海最大の巨大遊具を設置して欲しい。巨大遊具は、奥能登芸術祭発祥地のシンボルとして、今後芸術祭が奥能登一円に広がりを見せる中で、目玉となるような作家をお願いし、一つの作品としたい。これが最大のお願したい点である。

その他、雨でも利用できる屋根付きの遊戯場、競技場、釣り桟橋の埋立地における整備を望む。また、復興公営住宅の整備、仮設住宅の活用、商店街の活性化、観光振興、被災空地の利用、コミュニティ施設、公民館のまちなか移転、地域資源の活用、道路の整備、小学校の運動会へのまちの人の参加等の意見が出ている。

今日は、「新たなまちのかたち」について説明がある。それを聞き、私たちの意見も提案していきたい。

市長:

飯田のまちの「新たなまちのかたち」をどうしていくか、去年は6月、8月、12月と3回意見交換会を開催させていただいた。また、飯田町では復興まちづくり協議会が設立されており、泉谷会長から要望のお話を頂いたところである。

まずは、復興公営住宅をどこに、どのような形で整備していくのか。また道路の拡幅についてもできるだけ早く固めて、具体的に進めていく必要がある。本日は、このあたりを中心にご議論いただきたい。公費解体も進んでいる。飯田町においては81.4%完了している。更地が広がっており、地権者の同意も必要であるが、「あのあたりに復興公営住宅を建てたらどうか」という話も頂きたい。

7月20日、21日には飯田燈籠山祭りも開催された。皆さんの思いにお応えし、魅力ある最先端の復興を進めてまいりたい。

**【資料説明】**

資料1 復興方針図

資料2 復興まちづくり計画図

資料3 下水道復旧図

## 【参加者からの意見】

### 市長：

復興公営住宅であるが、飯田町においては75戸は必要である。吾妻町の専売公社跡地に20戸、鍛冶町の予定地とされているところで12戸、健康増進センターで58戸見込んでいる。飯田のまちの皆さまが、増進センターのところ、高層の集合住宅でよいのかと考えると、まだまだ候補地を検討する必要があると私は考えている。候補地の提案があれば、ぜひお願いしたい。

### 泉谷区長会長：

候補地であるが、南町のスメル館あたりが良いのではないかという声を聞いている。スメル館の持ち主は、使ってもらってもよいと言っている。周辺も空いている土地がある。

### 参加者

全体的な流れをお聞きしたい。復興公営住宅の建設と下水道を最優先とするのは当然かと思う。道路も合わせて行っていくのか。また資料1には、これまでの会議で要望が出た、燈籠山が通る道路の無電柱化も示されている。このような内容を含めたスケジュール、話の詰め方などをお聞かせ願いたい。

### 市長：

道路の下には水道、下水道がある。また、側溝があり、場所によっては消雪装置も入っている。下水道の復旧に合わせて、できれば一括して実施できると良い。ブロックごとに進めていくと効率が良い。水道管を復旧した、それを埋めて次に下水道管を復旧、次に消雪装置とやると費用も大きくなり、国の補助率も変わってくる。しかし、全てを同一のタイミングで行おうとすると、いつになったら着手できるのかということになる。道路だけ先行して進めることもあると思う。

### 珠洲市：

先ほど下水道の敷設に関する工程を示した。下水道管を入替え、泥で埋め、すぐに本復旧すると、埋めたところが陥没する。そこで下水道の工事が終わって1年程度は仮復旧工事のまま土を落ち着かせる必要がある。そのため道路の本復旧は下水道の工事が終わってから1年後となる。道路が終わって消雪装置のあるところは、井戸の問題もあるが、消雪管の工事を最後に行う。路線図の中で、この道路をもう少し広げたい、避難路のため広げたらどうか、角を緩やかにしたい等、道路の改良は示していないが、災害復旧と併せて検討したい。地域からの要望があればお聞かせ願いたい。

### 市長：

無電柱化については災害復旧と別になるのか。

### 珠洲市：

無電柱化することで、燈籠山等のお祭りが盛り上がると思われる。しかし、まずは復旧、生活を取り戻すことが現実的ではないかと考えている。無電柱化には電力会社等の企業協力も必要となる。企業側の体力も調整していかなければならないため、現時点で「できない」という答えではないが、タイミングを見計らって関係者に申入れさせていただくことを提案したい。

**参加者：**

祭りの盛り上がりだけではなく、震災の時、避難しようとしていた道路が通れなかった。建物も倒れたが、南町の通りでは弓なりのようになった電柱があり、その下をなんとか通って避難した。祭りに固執するわけではなく、祭りで通る道は無電柱になっていれば、どこを通ればよいか分かり、安心して通行できる。改めて要望したい。

**市長：**

道路の拡幅と併せて無電柱化を考えていきたい。

**参加者：**

復興公営住宅の予定地に私の土地も含まれているが、調査を行ったことなど全く存じ上げていない。勝手に調査が進んでいるのか。

**珠洲市：**

勝手に調査をすることはない。鍛冶町の予定地は、現在、測量させていただいている。用地担当者から案内があったと思う。調査に入る時に、ご連絡させていただいているが、もし手違いがあったとしたら謝罪したい。調査段階であり、今後検討を深めたい。

**参加者：**

飯田町で協議会が立ち上がり、様々な意見を取りまとめたものが資料1と理解している。資料1では公民館は港のほうに移したいとなっている。しかし説明では公民館は移転しない計画となっており、私たちの話し合いの結果とは関係なく、行政のプランが進んでいるのではないかと感じている。

**市長：**

できるだけ皆様のご要望、まちづくりに対する検討結果は、反映させていきたいという思いでいる。お話があった飯田公民館については、被害が小さく建替を行う必要が無い。他の地区では、公民館の被害が大きく、建て直しが必要な地域もある。そのため、ご要望通りに新しく建て替えるのは難しい。復旧に関する国の補助も得られない。ご要望、ご提案とのすり合わせが必要である。災害復旧以外では創造的復興支援交付金等は活用できる。できる限りのことは、皆さまと協議し進めたい。特に、飯田港の活用は重要である。日本海側最大となると、どのような大きさになるか気になるが、考えていきたい。

**参加者：**

飯田公民館は土砂災害警戒区域の中に入っている。城山の崖が崩れた場合、公民館まで土砂が来るのではないかと不安である。飯田公民館に避難しようという気持ちになれない。市役所の前の道が濁流になった時も、公民館ではなく市役所に避難に向かったが、濁流でたどり着けず家に戻った。公民館の場所が問題だと思うが大丈夫か。意見集約には公民館を移転する案が出ており同感である。建物が頑丈であれば大丈夫というものでもない。土砂に潰される可能性がある。

**珠洲市:**

飯田公民館のハザードに関しては津波、若山川の洪水、土砂災害があるが、土砂災害に関しては旧飯田保育所と同様、石川県にて擁壁を整備している。想定以上の災害は起きうるものの、基本的には構造物で守られているため、指定避難場所に指定している。津波は区域外である。洪水（若山川）は10cm程度の浸水深が予想されている。1000年に1回の確率である。指定避難所はハザード以外に設けるべきではないかというご指摘は、全国的な問題にもなっているが適地の問題、予算の問題もある。被害の状況に応じて、ハードとソフト両面から地域の方と協議して進めてまいりたいと考えている。

**参加者:**

様々な復旧、復興の案がでていいるが何年後に完了するのか。その際の珠洲市の人口、年齢構成はどのような想定か。これだけ多くの事業が珠洲市で可能なのか。仮に可能だとしても、その後不要になってしまうのではないかと心配である。

**市長:**

インフラ等は令和11年度までにしっかり復旧を進めていこうと取り組んでいる。資料1は地域の皆さまからいただいた「新たなまちのかたち」を示している。時間がかかると人口がどうなっていくのか、離れてしまう方、戻ってこない方が増えると思われる。まずはインフラの復旧整備をしっかり進めることが大事だと考えている。できるだけ飯田町の皆さんでお考えになったご提案については、実現に向けて進めていきたいと考えているが、公民館の話だけでも、すり合わせが難しい面もある。全ての事業が何年までにできるかを示すことは難しいが、できるだけ早く、インフラの復旧からしっかりと進めていきたい。

**参加者:**

区長会長に聞きたいが、まちづくり協議会として、様々な事業を提案されているが、いつ頃までを想定しているのか。その時、飯田町はどうなっていると想定しているのか。

**市長:**

施設等の整備に関しては行政とキャッチボールしながら進めていくことになる。

**泉谷区長会長:**

毎月、第一木曜、公民館で話し合いを進めている。それをまとめたものが、初めて出てきた段階である。行政へ働きかけること、官民協働で行うこと、民間で行うことなどの振り分けもこれからだ。会として、「珠洲の中心として人が集まり、楽しく過ごせるまち」を目指そうと考えており、それをどうしていくかが課題である。現在まで3回開催した。今後、区長会にも声をかけ意見をまとめる。具体的に何をどうするかは未だ決まっていない。毎月、第一木曜、午後7時から公民館で開催している。参加し意見を話してほしい。

**参加者:**

議会でも話が上がっているが、小中学校の統合について様々な意見が出ている。私は、子どもの将来を1番に考えるべきと思う。地区のコミュニティが廃れる、行事ができなくなることよりも、子どもの教育環境を優先すべきである。

**市長:**

先だって総合教育会議で教育委員会の方々とも議論をさせていただきました。今後、幅広く意見をいただく方法も考えながら取り組んでいきたい。既存の学校、どこかの1つの学校が隣の学校と合併するのであればスクールバスの確保も大きな問題ではないが、2つ、3つの学校が合併するとなると安全にバスを運行できるのか、道路から直す必要もあり時間を要する。また、どの学校の校舎も年数が経っており持続可能ではない。そうなるとう新築の必要性が出てくる。どこの地区の児童、生徒も歩いて通える人がなくなる。復興公営住宅の適地を見出すのも難しい状況の中、より広い用地を必要とする学校の新築はさらに難しい。加えて、大雨の際に川が溢れないか、津波の心配がないかを考えると場所を選定するのが難しい。

昨年1年で生まれたお子さんが35名、今年は7月末までに12名という出生状況であり、先々について考えていかなければならない。ただし早急に、この学校とこの学校を統合して校舎はここにすると決めるのは難しい。

**参加者:**

複合型復興公営住宅が健康増進センターにできるという説明だったが、複合の中身を教えて欲しい。

**市長:**

元々健康増進センターだったため、福祉系施設の上に公営住宅を整備するイメージだ。

**参加者:**

公営住宅には高齢の方が入る可能性が高いので、デイサービスや医療との複合化、看護師が常駐するなどのイメージではないということか。

**市長:**

そこまでのイメージではない。

**珠洲市:**

現在、社会福祉協議会やシルバー人材センターがあり、向いに社会福祉法人すずきがある。近くに病院、図書館があり、安心して暮らせる福祉的な拠点になるとよいと考えている。看護師の常駐となるとサービス付き高齢者住宅のような施設になるため、復興公営住宅としてはそこまで考えていない。

**参加者:**

仮設入居者に、1年の延長を希望するかについてのアンケートが届いた。入居しているお年寄りに、「公営住宅にいつ入れるのか」とよく聞かれる。仮設は狭いので、復興公営住宅にいつ頃入れるのか教えてほしい。旧八木邸は仮設住宅が建っているが、復興公営住宅候補地になっている。その場合は仮設住宅に入っている人が全て出てから、復興公営住宅を建てるのか。

**市長:**

まずは1年の延長が決まった。大規模災害があった他の地域の事例では、4年、5年、復興公営住宅ができるまで延長している。国の制度上、毎年延長の手続きが必要である。意向調査も毎年あり煩わしいと思うが願います。復興公営住宅整備のタイムスケジュールを担当から説明する。

**珠洲市:**

既に進めている専売公社跡地は令和9年度完成を目指している。それ以外は、令和11年度までに整備する予定である。意向調査もあり、精度を高めていきたい。

**市長:**

令和9年、10年、11年度で、市内の必要戸数700戸を整備する予定である。

旧八木邸を候補に入れているが、少しずつ自力再建等で空いてくる。いったんどこかに移ってもらって建てる等、具体的な段取りは未定であるが、候補地としては良い場所であると考えている。

増進センターの予定は58戸、飯田の多くの方がそこを望まれるか疑問もある。もう少し、飯田のまちなかに整備していく必要があると考える。泉谷区長会長からも提案があったが、復興公営住宅の候補地について、まとまった土地があれば提案いただきたい。自分の感覚では、飯田町にまだまだ候補地が必要ではないかと考えている。

**副市長:**

復興公営住宅について10月に詳しいアンケートを取る予定だとお伝えした。アンケートの中には、復興公営住宅の候補地も示し、どこを希望するか、場所の希望までお聞きする。そのため20頁程度の資料を同封予定である。家賃の情報も示す。一人暮らしのおばあちゃんに理解いただけるかという問題はあるが、これまでのアンケートとは異なり、精度の高い情報を得ようとしている。正確な情報を得ることができれば、令和9、10、11年の整備につながる。

例えば、飯田地区の多くの方が、特定の場所を選ばれたら、そこに必要な戸数を用意できるよう調査、設計に入る。ただし、「まだ決めていない」という意見が多いと、明確な計画が立てづらくなる。入居希望者にお声がけいただき、アンケートの回答に際し相談に乗っていただくなど、正確な情報が得られるようご協力いただきたい。

**市長:**

復興公営住宅を心待ちにされている方もいる。できるだけ早く、この場所で、このような形で、どれだけ建てるということを決めて、進めていきたい。

**参加者:**

豪雨被害について、用水路が飯田町に多くあるが、崩れていたり埋まったりしている。インフラ整備の中に、用水路等の復旧も含まれているのか。

また、私は栄町に住んでいるが、栄町の、のと鉄道跡地の盛土をどうするのか。撤去してほしいが、そのような予定はあるのか。

**市長:**

水路が壊れている箇所がある。飯田小学校の通学路もそうである。水路が塞がって、水が溢れてしまう。昨年の9月は、小学校のあたりからも水が流れてきて市役所前の通りが冠水した。道路復旧とは別に、水路で急ぐべき箇所は個別に対策を講じたい。応急的な対策をしていかなければならない。

のと鉄道の盛土撤去については、大きな費用がかかる。また、飯田の分団の待避所の場所もまだ確定していない。盛土が撤去できれば分団の用地も確保できると思われる。のと鉄道は無償に近い条件で譲ってくれると思う。これを機に撤去が望ましいようであれば考えたい。地震や豪雨での崩落などはなかったのか。

**参加者:**

一部が崩れ用水が埋まる原因となった。

**市長:**

用水の土砂を取り除くことも必要であるが、そもそも盛土が不要であると思う。

**参加者:**

地震で崩れて用水を塞ぎ、豪雨災害の時、まさに水が溢れ浸水した。

**市長:**

盛土を全て取り除くことができるのか、必要な箇所のみ撤去できるのか。技術的な問題、予算も考え対応していきたい。

**参加者:**

鉄道と国道が交差している場所は海拔が低い。昨年の豪雨で若山川は大丈夫であったが、金付川（用水）が溢れ 30～50cm 程度冠水した。盛土を撤去して使う場合は、かさ上げが必要だと思う。また若山川までの市道は亀裂だらけだ。

**市長:**

浜岡さんとサンユーさんの間の盛土を撤去すると水がつくという理解でよろしいか。

**参加者:**

金付川の用水が若山川に流れなくなり、栄町は水がついてしまう。のと鉄道の盛土を撤去して使う場合は、地面のかさ上げが必要だ。

**参加者:**

復旧に関し、消雪装置が最後になるという話があった。天候が不順で、どか雪が怖い。暫定的にでも、車が多いところなど、復旧できないものか。

**市長:**

私もそのように思う。使える区間もあるのではないか。

**珠洲市:**

消雪装置は地下水を利用している。井戸水が出るか調査中だ。井戸から水を汲み上げることができれば、路面上の消雪装置で散水することは可能だ。途中でパイプが切断しており漏水するが、井戸水が汲みあげれば切断箇所を修復することで利用できる可能性がある。道路の中央に水を撒き、その水が左右に流れ車で攪拌されることにより雪が解ける。道路の状況によっては、うまく解けないことも予想される。井戸の状態、散水の状態、道路の平坦性などを確認させていただき、可能などころがあれば対応したい。それ以外は機械除雪でお願いしたい。

**市長：**

人手が足りないことは分かっているが、早めに融雪装置の状況を調べてほしい。病院の周りなどは、利用可能ではないかと思う。

**市長：**

復興公営住宅の整備に適した、まとまった地面の情報はいかがか。

**参加者：**

復興公営住宅の構造、必要敷地面積、用地取得方法についてお聞きしたい。

**珠洲市：**

長屋または共同住宅を予定している。鉄筋コンクリート造か鉄骨造かについては、設計段階で検討する。木造ではない。必要敷地面積は一団地 10 戸程度を予定しているので、面積 2,000 m<sup>2</sup> (約 600 坪) 以上がありがたい。また、土地は原則、買い取る。

**参加者：**

復興公営住宅の話があった。自宅の前に旧図書館があり現在倉庫となっている。この土地の利用は検討されているのか。

**市長：**

震災前は旧図書館は解体予定でいた。今は解体がいつできるのか目途がたっていない。復興公営住宅の整備は解体後の着手になるのでスケジュールも遅くなる。また応急仮設住宅が隣接している。解体となると、住んでいる人にいろいろご迷惑がかかる。

**珠洲市：**

検討は行った。近くに応急仮設住宅がある。応急仮設住宅の撤去後に活用を検討する予定である。そのため活用まで時間を要する。

**参加者：**

私は「みんなの家」に関わっている。逆に行政の方々が若者や住民にどうして欲しいと思っているのか聞いてみたい。行政の方の意見を聞くことで、議論が活性化するのではないか。

**市長：**

まだまだ厳しい状況の中、児童生徒、若い方にも頑張ってもらっている。飯田の燈籠山祭り、宝立の七夕キリコ祭りも復活している。若い皆さんの動きは復興に向けた大きな力となる。外浦では、移り住んで来られた若い方が率先し、色々な取組みをしている。昨日も、自主的に復興公営住宅の勉強会を開催され、自らが説明し、市役所が補足する内容であった。飯田町の復興まちづくり協議会においてもいろいろな議論がある。若い方も加わって意見を出してもらえればありがたい。10 年後、20 年後のまちのかたちを考える際に、若い方の意見が重要である。よろしくお願ひしたい。

**珠洲市:**

三上です。発災当初から、市長より「人の命より重いものは無い」という思いをお聞きし、活動してきました。戸別訪問、ケースマネジメントを担当している。行政は申請方式で、書類を出すことで伝えたことになるが、一人も取り残さないように、若い方も高齢の方も珠洲に戻って来れるように、各種支援制度を有効活用し自力再建が進むよう活動している。

何からすればよいか悩んでいる。子どもの数が約27%と大きく減っている。金沢以南にも多くの方が避難されている。ピースウィンズ・ジャパンさんとも連携し「こどもの広場」をつくり、毎日40~50名が来られている。高齢の方は、デイサービスをはじめ福祉・医療サービスの不足が不安で戻ってこれない方もいらっしゃる。

人が先なのか、建物が先なのか、優先順位に悩んでいる。先ほど市長もおっしゃられたように、様々な地域で、小さな集まりが開かれ、「一歩でも前に進めることができないか」と相談を受けることがある。それが自分の中では、日々の活力につながっている。「こんな小さなこと言ってもな」ということでも提案し、行政の職員といっしょになって考えていくことが大切だ。ピースウィンズ・ジャパン、YNFが官民連携のサポートをしてくださっている。職員も被災しながらでもあるが、応援職員にも来ていただき、日々どうすればよいか考えている。市長も休みなく働いている。みんなでいい形にできればよいと思う。

**市長:**

飯田町まちづくり協議会の皆さんともすり合わせしながら進めていきたい。復興公営住宅の候補地の情報も願います。

**泉谷区長会長:**

協議会で話し合っただけの資料が、今日できあがったところである。皆さまに何らかの機会に、全家庭に配布し、それに対する意見も出してほしい。

**市長:**

できるだけ早く固めて、復興公営住宅、道路等を進めてまいりたい。協議会とも連携し進めたい。協議会は月に1回開催している。飯田地区の復旧、復興を進めてまいりたい。

以上

日 時	2025年8月21日(木) 18:00~20:00
場 所	正院小学校 体育館

参加者：82名

**【開会のあいさつ】**

**濱木区長会長：**

本日の意見交換会、市長をはじめ市の関係者の皆様にお越しいただき、感謝する。本日、忌憚なく意見を出してもらいたい。意見が全て実行できるわけではないが、まずは聞いていただくことが大切である。一日も早い復興を願っている。

**向山市議会議員：**

能登半島地震発災後、2回目のお盆を迎えた。お墓参りをしたが、お寺は更地になっており、お墓は倒れており、発災直後のままである。正院町の街並みも、公費解体により空き地となった場所は雑草で青々としており、以前と大きく変わってしまっている。改めて地震被害の大きさを実感している。

今日は復旧に向けた第1歩となる「新たなまちのかたち」の指針が示される。未来の正院町、明日の正院町のまちづくりのため、積極的に意見を出していただき、有意義な意見交換となることを祈念する。

**市長：**

正院町の再生、復興に向け、正院町の新しいまちのかたちをどうしていくか、重要なことである。昨年は6月、8月、12月と3回意見交換会を開催させていただいた。また、正院地区として、まちづくりを考える正院町未来会議があり、議論を重ねていただいている。今月8日には、区長会長の濱木さん、未来会議共同代表の瓶子さんにお越しいただき、復興まちづくりの方針案を提案いただいた。

このような中、まずは、住まいをどのように安定させていくかについて、復興公営住宅をどこで、どのような形で整備していくか。正院地区の必要戸数は100戸と推計しているが、現在の市営住宅を解体し整備すると40戸程度、飯塚地区で10戸、合わせて50戸である。まだまだ不足している。復興公営住宅の整備方針では、10戸単位で整備していきたい思いがある。10戸で約2,000㎡、約600坪のまとまった土地を、どのように確保していくのか。皆さまから、この辺りで整備できるのではないかという情報があれば、本日教えていただきたい。

安心、安全、快適なまちづくりという観点では、どの道路を拡幅整備するのかを説明し皆さまのお考えをお聞かせ願いたい。

未来会議、区長会の共同提案として、公民館を大町通りに整備し、コミュニティの拠点とすることが示されている。提案にはできるだけ応えていきたい。できるだけ意見のすり合わせしていきたい。

復興公営住宅の候補地、道路拡幅の場所などを中心に本日は意見をお聞かせ願いたい。厳しい中、昨年は「奴振り」も実施された。皆さんの思いにお応えし、魅力ある最先端の復興を進めてまいりたい。今日はよろしく願います。

## 【復興計画案の説明】

資料1 復興方針図

資料2 復興まちづくり計画図

資料3 下水道復旧図

## 【参加者からの意見】

参加者:

復興公営住宅について、福島では大規模な公営住宅の空家問題が深刻であると聞いている。正院で100戸必要であるが、40戸、50戸の大きな住宅を建てるのではなく、10戸単位で建てたほうがよいのではないかと。

市長:

正院地区における整備のあり方であるが、まとめて建てるより街並みを意識して整備する方が良いと考えている。正院のまちなかにおいても、コミュニティが分かれている。それぞれのコミュニティで整備できれば一番良いが、まとまった用地を確保するのが難しい。すでに住み続けている方、今後自力再建されたい方もいる。どの場所に、どのように建てるかを早めに固めて、進めていきたい。まとめろんな土地の情報を具体的にいただければ、検討を進めていきたい。重ねてお願いする。

参加者:

土地の情報提供は考えたいが、土地の交渉は市役所にしてもらえるのか。また単価はどれくらいか。

珠洲市:

交渉は市で行う。用地は買い取りさせていただく。価格は固定資産税評価額を基本に算定する。

参加者:

川尻に住んでいる。何度かお伝えしているが、「難しい」と言われている内容を再度お伝えする。

区の土地が多くあるが、借りていた人が今回の地震で住宅が壊れ、ほとんどの人が土地を区に返した。税金の支払いも必要であり、住んでいなくても住所がある人からは協力金500円を集め、借りている人からは借地料をいただき運営してきた。その区の土地が空いてきて、地区に住んでいる人も少ない、借りる人もいない。これから税金をどのように支払うかを考えた際、その土地を復興公営住宅として使うことができないかと思う。ただし代表者が何十人というため土地を使うことが難しいとも考えられる。その際、区の税負担を軽減できないか。

市長:

共有地のような土地か。

参加者:

川尻区で管理している地面である。その土地を借地して住宅を建て住んでいた人がいたが、今回の地震で建物が壊れ、もう使わないと申し出があった。そこで市で使ってもらえないかという話である。

市長:

まとまった広い土地か。

**参加者:**

そうではない。細長い。住んでいた人は自分の地面だけでは狭いので、区の土地を借りて家を建てていた。区の地面だけでは住宅は建たない。浜側、海岸通りの土地である。

**市長:**

お聞きする範囲では難しいと思われる。

**参加者:**

復興公営住宅として使うのが難しのであれば、固定資産税の区の負担について軽減してもらえる措置はないか。

**市長:**

負担になっていると思う。この場では回答できないが、考えていきたい。

**参加者:**

正院大町に住んでいる。大町の通りは10mの幅がある。解体して広い土地がある。地権者からは、土地を提供し復興公営住宅を建ててもらい、住むことはできないかという話も出ている。連絡の取れない地権者もいる。候補地として調査してもらうことは可能か。

**参加者:**

以前お聞きしたときは、自分の土地を提供して復興公営住宅が建っても、必ずそこに住むことができるわけではないと聞いた。

**市長:**

例えば、珠洲太郎さんの土地に復興公営住宅を建てた場合、珠洲太郎さんが絶対そこに住むことができるということになればよいのだが、基本的に公営住宅であるため、入居希望者がいれば抽選することが公的な原則となる。私自身は四角四面ではなく柔軟に進めたい。珠洲太郎さんの土地に復興公営住宅を建てて珠洲太郎さんが住み、山田花子さんの土地に建て山田花子さんが住むということができれば理想だが、現実には難しい。

**参加者:**

土地提供者の件は理解した。大町の土地は利用を検討してもらいたい。

**市長:**

正院分団のあたりの土地で間違いないか。まとまって広さはありそうか。

**参加者:**

一定のまとまった広さはある。

**市長:**

街並みを整備する観点からも望ましい。調査を進めたい。解体済みの土地は連絡がつく。

**参加者:**

小路地区の者である。復興公営住宅の候補地が正院団地の跡地、飯塚地区に示されているが、小路地区にも10戸以上建てられるまとまった土地があるので検討して欲しい。馬縞と飯田の専売公社跡地で着工することが決まったと報道で知った。まだ着工していないようだが状況を知りたい。また穴水町では着工し、入居できるまで1年以上と新聞に載っていた。土地が決まって着工してから入居まで何年かかるのか。私は80歳を過ぎた。5、6年かかるとなると不安だ。

**市長:**

小路のまとまった土地については、担当に知らせてほしい。整備予定地の2か所であるが着工時期については私もやきもきしている。令和9年度、10年度、11年度の3年で700戸全て完成したいと考えている。

**珠洲市:**

馬縞町に関しては石川県復興公営住宅推進協議会と協定を結び、設計を進めている。吾妻町の専売公社跡地はUR（都市再生機構）と協定を結び、設計する会社を選定中である。おおよその目安であるが、戸建て、長屋は業者が決まってから2年、共同住宅（鉄筋コンクリート、鉄骨）タイプは2年～2年半かかる。令和9年～11年度で700戸整備したい。

**参加者:**

飯川、金川の護岸工事はいつになるのか。

**珠洲市:**

飯川、金川の護岸は県が実施する。令和8年度着工を予定している。

**市長:**

金川橋は令和7年11月～令和8年5月、飯川橋は令和7年11月～令和9年8月の工事予定である。架け替えなのか、仮橋を架けるのか担当から説明させる。

**珠洲市:**

金川橋は補修、飯川橋は架け換えとなる。飯川橋は仮橋を設けず、普通車は油谷橋を使って迂回してもらおう。大型車は飯田から珠洲道路に誘導する。

**参加者:**

金川橋の横に側溝があるが復旧は護岸に合わせて行うのか。大雨のたびにたいへんな状況になっている。

**珠洲市:**

仮設店舗がある場所付近、低い土地であり、元々は金川の左岸に排水していた。市道は損傷していないため、下水道の工事をしてから、仮復旧で約1年おいて本復旧となる。本復旧の際に水路を入れなおすことになる。堤防自体を直さないと流れないため、県と連携し本復旧に時間がかかるようであれば対策を考える。

**参加者:**

先日、未来会議として濱木区長、瓶子さんと提案書を出した。三つの内容であるが、その中で大きな話は公民館である。未来会議では公民館を今の場所で再建するという話は全く出ていない。地盤は崩れ、飯川の護岸も壊れ、避難所としても川の近くでよいのか、川尻の人が飯川橋を渡ってこれるのかなど心配な点が多い。まちづくりの会議やまち歩きをする中では、現在の場所で建て替えるという意見は出てこなかった。そのため、JA跡地に公民館の移転を考えていただきたい。公民館は社会教育施設であり様々な機能を入れにくいという話も聞いた。コミュニティスペースとして整備し、その中に公民館も入る形がどうか。土地が狭いという問題はある。

**市長:**

お配りしている図面のJA跡地は、周辺の住宅地も含めている。私の認識では、公民館、コミュニティセンターには敷地が狭いため、難しいと判断した。そのため、現在の場所で崩れたところを駐車場、崩れていないところに建物を整備したらどうかと考えた。

しかし、正院町の皆さんのご要望が、ここを町の中心に据えて考えていきたいということであれば、JA跡地でなんとかできないか考えていきたいと思う。JA周辺の地権者の理解を頂く必要がある。自力再建される方、地面を手放してもよい方の把握が、現在できていない。交渉は市が行うが、土地の情報提供を頂きたい。土地が確保できれば、具体的な整備計画を検討することができる。正院公民館は建て替えが必要である。国の災害復旧予算を使うことができる。

**珠洲市:**

災害復旧予算で整備するためには、同じ場所が原則となる。

**市長:**

制度として融通がきかないところもあるが、国と調整してみたい。地盤の状況が悪く、建て替えは難しいという理由がある。移転する場合も復旧の予算をつけてもらえるよう私のほうから働きかける。できるだけ皆さんのご要望に応じていきたい。公民館の位置、大町、小路の復旧公営住宅の候補地の話もいただいた。検討してまいりたい。

コミュニティセンターの機能であるが、チャレンジショップ、お祭りのスペース、宿泊施設等のご提案をいただいているが、宿泊施設までは難しいと思う。どこまで機能を持たせるか考えていきたい。宿泊施設は地域の方で運営してもらうことになる。コミュニティセンターを整備し、公民館を入れるとなるとその部分は災害復旧の予算を使うことができる可能性がある。それ以外は珠洲市の負担になる。県の創造的復興支援金を活用できれば不可能ではないと思われる。考えていきたい。

**参加者:**

未来会議の提案に、小路の復興公営住宅の場所も提案しているので確認して欲しい。

**市長:**

確認する。先ほどのご発言と同じ場所か。

**参加者:**

ほぼ同じ場所である。畑地である。地権者までは調べていない。

**市長：**

立町、大町などそれぞれに復興公営住宅を整備し、街並みを整えていきたいが、一定程度まとまって建てないと時間がかかりすぎる。また管理の問題もある。

**参加者：**

個人的な意見であるが、正院ではアパートに住むという経験がこれまでない。40戸といわれてもピンとこない。

**市長：**

正院団地の跡地には40戸の復興公営住宅整備が予定されている。どのようなものを予定しているのか。

**珠洲市：**

まちづくり協議会の資料にも記載しているように、津波避難タワーの機能を持たせるという意見があった。屋上を避難スペースとし3階建てを計画している。1階はピロティの可能性もある。複数の案を検討中である。

**参加者：**

避難タワー機能は必要である。入居したい人がいるのであれば、それを妨げる思いはない。

**市長：**

正院地区で100戸予定しているが、現在の予定地では40～50戸である。本日候補地の意見もいただいた。市で調査を進め、検討していきたい。

**参加者：**

資料1では水色に、資料2では灰色で示されている。灰色は拡幅予定なのか。

**珠洲市：**

資料2の灰色は市道であり、着色の無い場合は復旧の対象ではない。拡幅予定は赤点線である。正院地区は須受八幡宮のところと旧正院住宅周辺である。

**参加者：**

公民館長である。令和4年のマグニチュード5.4の地震のときはお2人の方が避難し、その日のうちに帰られた。令和5年のマグニチュード6.5の地震では70人が避難所に来られ、正院小学校と交互に20日間避難所として機能した。しかし令和6年の地震の際は避難所とならなかった。大津波警報が出たときは、正院公民館は避難所の対象から外れるからである。正院公民館の現在の場所に再建しても、大津波警報が出た場合、避難所機能を備えた公民館とはならない。再建ではなく、ハザードマップから外れたところ、JA跡地はハザードマップから外れているため、周辺の土地を取得し公民館を再建すれば、避難所足り得る。公民館の再建場所として考えてほしい。

また、30戸、40戸の復興公営住宅を建てるのではなく、10戸程度の復興公営住宅を散在させればよいというお話があった。正院には18の区がある。区長は復興公営住宅が整備された後、自分の区が存続できるかどうか心配している。例えば、私は今町だが20軒のうち3軒しか住んでいない。区長制度の見直しに関し珠洲市も考えていると思う。キリコの発祥などを考えても町会単位である。10～15戸程度の復興公営住宅を海側に配置することで、正院町の伝統が続き、区長さんの心配が和らぐ。そのような未来設計をお願いしたい。

**市長：**

公民館移転については、ご指摘のとおりと思う。その方向に向けて考えていきたい。現在の公民館の跡地をどうしていくか、お知恵をいただきたい。

復興公営住宅の考え方は私も同様である。町会単位で整備できればよい。一方、建設期間、将来的な維持管理を考えると、ある程度まとまって建てるほうがよい。しかし復興公営住宅を整備すれば、30年先、50年先も、まちのかたちを既定することになる。少し時間がかかってもよいから候補地を検討するのか、時間をかけずにそれぞれのコミュニティに分散してできれば一番良いが、市側の担当の負担が大きくなる。情報を頂ければありがたいと思う。市外、県外から応援職員に来ていただいている。まちの実情は地域の人が一番よく知っている。

**参加者：**

町民がいなくなって区が成立しなくなるところが出てくると思う。街灯は各区で電気代を支払っているが、町民が少なくなる中、電気代の支払いが難しくなってくる区も出てくる。何か補助などを考えているのか。電球の球切れ、LEDへの交換などの問題もある。残っている少ない人で負担するのは大変かと思う。

**市長：**

昨年度は、行政区毎に世帯数×1万円を補助した。今年度は街灯に係る費用を、できれば10/10補助しようと考えている。ただし、対象地区は地域の方が2割以上減少した場合となる。区長さんには、住宅地図上で街灯の場所、納めた領収書の整理をお願いすることとなる。今は、県の補助制度で半分賄っているが、今後継続できるか考えていきたい。壊れた街灯、電柱ごと破損した場合等は、環境建設課に相談いただきたい。市で整備できる場合もある。

**参加者：**

未来会議事務局長である。本日、たくさんの情報が出たと思う。聞き取りづらい箇所があった。議事録の作成、公開予定はあるか。

**珠洲市：**

資料と議事録はホームページに掲載する予定である。

**参加者：**

資料1はこれまでの話し合いや相談結果が示されていると思うが、これに対する説明がなかったと思う。話し合いの結果を示しているにすぎないのか。

**市長：**

これまでの話し合いで出されたアイデアを示している。再度、ご確認してもらいたい。冒頭お話ししたが、できるだけ皆さま方のご要望にお応えする形で、正院町の再生、復興を進めていきたい。本日は特に復興公営住宅の候補地、道路拡幅の箇所について説明し、皆さんが把握されている候補地等の情報を頂きたかった。今後皆さま方のご要望をどうやって反映させていくか協議を進めたい。正院町未来会議を継続いただきながら、提案書をベースに検討を進めたい。うまく資料1のアイデアを、資料2に入れ込んでいけるように進めたい。

**参加者：**

議事録についてホームページに公開ということで良いか。今日参加しなかった方、市外に避難していてホームページを見れない方への情報のリーチを市役所としてどのように考えているのか。未来会議はまちづくり新聞を毎月発行し、広報と一緒に配っている。連携していくことは考えられるか。

**珠洲市：**

基本的にはホームページで公開する。印刷いただいて、広報とあわせて配ることは可能である。

**参加者：**

議事録をまとめて、市外に避難している方に「まちづくり新聞」をお送りする際に同封してもよいか。

**市長：**

それは可能であるが。情報を変えないようお願いしたい。

**参加者：**

復興公営住宅の建設が5年後となる。現在仮設住宅に入っているが、2年で終わると聞いている。復興公営住宅が整備されるまでの5年間は仮設に住めると考えておいて良いのか。また、コンテナ（トレーラー）タイプは下取りができるという噂を聞いたが真偽はどうか。

**珠洲市：**

災害救助法では入居期間は2年と決まっているが、1年延長が決まった。入居期間に合わせて延長手続きをお願いすることになる。延長は1年ごとになるため、その都度意向確認を行う。コンテナ（トレーラー）タイプの払下げに関しては、市のほうには話は無い。

**参加者：**

復興公営住宅が建たない限り仮設住宅から退去させることはできない。住宅を建設する等により仮設住宅に少しずつ空きが出てくる。その際、荷物を置いておいておくことは可能か。

**珠洲市：**

家の建設、修繕が終わり退去される場合は、空けていただく。

**参加者：**

仮設住宅は集約していく予定か。

**市長：**

頻繁に引越ししていただくのは心苦しい。ただし、どうしても集約すべき場所が出てくる可能性がある。

**参加者：**

正院小学校のグラウンドは早く出て行ってほしいという風潮があるように感じる。

**市長：**

そのような考えはない。宝立の見附にある坂茂氏が設計した木造の仮設住宅は、賃貸住宅に転用しようと考えている。間取りは狭い。狭くてもよい人は家賃を設定して住めるようにしたい。一方、宝立小中学校のプレハブ仮設の入居者は退去しなければならず、坂さんの仮設がそのまま住み続けられるとなると不公平である。そのようなことも、考えていきたい。

未来会議を通して、まとまった地面になりそうなところなど情報提供いただきたい。来月中に必要戸数700戸について各地区の整備地をとりまとめたい。10月に改めて意向調査をする。できるだけ早く情報をいただければ調査に入る。引き続きお願いしたい。

正院公民館の移設についても固まったと思う。復興公営住宅の位置も煮詰めていきたい。早く決まれば着工も早くなる。情報提供、提案をお願いしたい。区長の皆様、未来会議とも連携し、力を合わせて正院地区の復旧、復興を進めてまいりたい。

以上

令和7年度 珠洲市復興まちづくりに係る意見交換会 蛸島地区 協議記録

日 時	2025年8月24日（日） 17:45～19:45
場 所	蛸島小学校 体育館

参加者：120名

**【開会のあいさつ】**

梧区長会長

まちづくり協議会設立に続き、珠洲市から復興に関する説明がある。それに対し、忌憚ない意見、質問をお願いしたい。

堺市会議員：

まちづくり協議会では、今日の意見交換会での皆さまの意見、質問を丁寧にまとめ、今後行政に提案したいと思う。そのため忌憚ない質問、意見を賜りたい。

市長：

先ほど蛸島地区のまちづくり協議会が設立された。引き続き、皆さまと蛸島町の「新たなまちのかたち」について意見交換をさせていただきたい。

昨年は6月、8月、12月と復興に向けて意見交換をさせていただいた。蛸島町の皆さまには、色々な案を出して頂いている。

資料1には、これまでの議論を集約した復興プランが描かれている。この中でも、復興公営住宅をどこに、どれだけ、どのような形で整備するのか、より安全で快適なまちにするため拡幅する道路はどこか等、説明をさせて頂き、ご意見を頂戴したい。これまで復興公園住宅に関し、3回意向調査を行っており、蛸島町は推計値で必要戸数は80戸であるが、少ないように感じている。自力再建の方が多いのか、意向が決まりきらない方も多いのかと思う。また、意向調査は10月に、詳細な調査をさせて頂きたい。

資料2には、現在考えている道路の拡幅、復興公営住宅の候補地等を示させて頂いている。意見を頂きたい。蛸島町は、公費解体が最も進んでおり94.3%となっている。830戸の解体申請があり、780余りが解体済み、47棟が解体待ちである。そのため、以前と比べると、まとまった地面が確保できるのではないかというイメージはつきやすくなっているのではないか。10戸単位で整備するとなると、概ね600坪程度の広さが必要になるかと考えるが、ブロックでまとまった土地があれば、進めやすくなる。具体的な話をいただければ幸いである。併せて、これから蛸島町をより魅力のあるまちにしていくためのプラン、アイデアを本日この場や、まちづくり協議会を通して議論して頂きたい。

**【復興計画案の説明】**

資料1 復興方針図 環境建設課

資料2 復興まちづくり計画図

資料3 下水道復旧図

## 【参加者からの意見】

### 参加者:

新町に住んでいる。道路の復旧に関して要望がある。資料2で青色の路線（令和9年度復旧予定）沿いで道路が80cm近く陥没しているところがある。そのため、自宅玄関の補修ができない。道路に面した建物は傾いており、今年度中に修復予定である。しかし、道路が沈んでいるので令和9年まで玄関が使えないということになるのか。青色の路線でも被害が大きいところは応急的に復旧できないか。元の高さに戻して欲しいのではなく、復旧するのであれば、計画高さはどれくらいになるのかを知りたい。それに合わせて建築の計画を進めたい。

### 市長:

単純に宅地に合わせて擦り付けたとしても道路勾配が変わり、雨が降った際の排水をどうするか等の課題が出てくる。仰って頂いた箇所についても、高低差を調整したい。

### 珠洲市:

浜通りの陥没について、ご迷惑をおかけしている。明日現地を確認させて頂きたい。建築の工事と併せてどんな対応ができるかを考えたい。

### 参加者:

道路の復旧に関して、復旧時に消雪装置も復旧していただけるのか。

### 市長:

震災が起きる前には、蛸島町の道路の一部で新たに消雪装置を整備する計画があった。道路の復旧に併せて消雪装置も復旧させていきたい。当初計画していた箇所についても、できれば整備したいため、調査を行っていききたい。

### 珠洲市:

市道は環境建設課、大谷・狼煙・飯田線は県の消雪装置となる。いずれも約250m井戸を掘り、地下水を活用している。まずは井戸が健全かどうかの調査を進めていきたい。井戸から汲み上げた後の配管の漏水点検についても行い。被害状況を確認し、簡単に復旧できるようであれば進めたい。

### 珠洲市:

下水道工事が終わった後、仮復旧という形でアスファルト舗装を行う。路盤が落ち着くのを待ち、約1年後にアスファルトを剥がし、本復旧という形になる。消雪機能の整備については、本復旧時となる。

### 参加者:

島の地に住んでいる。前回、蛸島川が氾濫し、今年も浸水してしまった。毎年起こることを前提に整備して欲しい。

### 市長:

蛸島川については、堤防を嵩上げして対応する予定である。準用河川であり、時間雨量50mmが国の補助対象の基準になっているが、気象が以前と比べて変わってきている現状を踏まえると、この内容で良いのか、国に対して協議したい。計画では堤防を60cm嵩上げすることにより何とか対応できるので

はないかと思っている。工事についてもご理解を頂きたい。

**参加者:**

蛸島大池の貯水量や水路についても検討が必要であれば、小水力発電等も併せて検討を行って欲しい。

**市長:**

まずは、大雨で氾濫しないように対策したい。海に放流する箇所は、県の対応になるが、現状よりも多く水量が流れるよう調整中である。全般的な対策についても、国交省の専門的知見を有する方と議論しながら検討を行っている。

**珠洲市:**

蛸島川の災害復旧について、資料2にあるとおり、被災した蛸島川を嵩上げすることにより、優先的に復旧していきたい。蛸島大池は被害を受けており、石川県で災害復旧をしていただくが、水を抜いて復旧を行うことになる。現状13万トン貯められるようになっているが、そもそもの貯水量の見直し、大池から流れる量の調整など、専門家の意見を聞きながら行っていく。また、蛸島川の堤防を上げた場合、通常の道路側溝の水を蛸島川に流せないという課題も出てくるので、堤防と内水氾濫のどちらも考慮した検討を行っている。

**参加者:**

大谷・狼煙・飯田線は、県の道路だから綺麗にならないのか。県道は市では対応できないのか。その他の道路も穴が空いている箇所があり不便である。

**市長:**

市道の事業主体は市で、県道の事業主体は県であり、大谷・狼煙・飯田線の復旧は県が動いている。早めに着手できないか要望する。珠洲道路など幹線的な市道については、応急的な補修を行っている。しかし補修を行っても再度沈むことが繰り返されている。都度対応する。

**参加者:**

以前、2.1mまで嵩上げするために作業用道路を整備し、整備後撤去するという話を聞いた。8月の連休にも島の地橋の堤防が越水し、20cmくらい浸水したのだが、堤防の整備内容について改めて確認したい。

**市長:**

60cmの嵩上げを行う。以前、作業用道路を一部残すことで更なる嵩上げという整備計画が、いくつかの選択肢の中にあった。ただし、一部だけ残しても意味が無く、連続した壁にしないと堤防の機能は果たせないため、作業用道路は撤去し、60cmの嵩上げを行う予定である。海に放流する箇所の対策も難しかったが、県の方で前向きに検討していただいている。蛸島大池も含めて総合的に対策を講じていきたい。

**珠洲市:**

蛸島川の山側の地盤が低いため、過去にも越水が起きている。解決策の1つの選択肢として、山側に堤防を作る。また整備の際に生じる仮設の築堤を残しても良いかということについて、現在1軒ずつ、工食用搬入道路と併せて話をさせていただいている。皆さまのご協力が得ることができれば、搬入道路に伴う築堤も残しておくという選択もできる。

8月の雨で、仲脇橋のところに土嚢を積んでいたが、階段部分には積んでおらず、そこから水が越水してしまい、島の地橋の方にも流れてしまった。申し訳ない。現在は土嚢で締め切って、対応している。今年の11月から川の本復旧工事を進める。

**市長:**

現状の堤防から60cm上げる。島の地橋自体も現状、底から1.6mになっているが、2.4mまで上げる計画であり、これに伴い橋の架け替え、前後の道路も影響が出てくるため、隣接の地権者と打合せさせていただく。仲脇橋についても、現状が低いため、時間雨量50mmに耐えうる高さまで上げる検討を行う。

**参加者:**

個人用の宅地の提供は考えているか。

**市長:**

行政が土地を用意し、新たに宅地を提供するというのは、土地区画整理事業であれば可能性があるが、相当な期間を要する。地籍の問題もあり調整が難しい。

**珠洲市:**

説明にあったように、区画整理を行うと時間がかかる。地区の皆さまがそれでも良いという合意を得ることができれば、事業を検討できる。発災後、再建の意向調査を行っているが、その中で顕著な意見として確認できたら、面的な整備である区画整理を考えたいと思っている。事業期間と費用の面を考慮し、現時点では提案を控えている。まちづくり協議会等で皆さままでお話しいただき、市の方に問い合わせいただきたい。

**参加者:**

住宅の再建についての補助金の申請の延長は可能か。

**珠洲市:**

珠洲市住まい再建支援金交付事業については、現在のところ、令和9年2月が申請期限となっている。その他に、住宅の応急修理制度（災害救助法）については、申請期限の延長が決まり、令和8年9月30日までとなった。完成期限は設定していないため、活用していただきたい。

**市長:**

期限については、実情に合わせて延長等を検討していきたい。

**参加者:**

支援金について聞きたい。再建については新築について200万円の上乗せ支給、子育て世帯は300万円までの支援があるが、県が発表している支援金とは同じものなのか。重複して支援いただけるのか。

**市長:**

珠洲市が200万円ないし300万円を支援する事業に対し、石川県が珠洲市の財政を支援するために、市に支援金を出すものである。重複して受け取ることはできない。

**参加者:**

太陽光パネル設置に30万円の支援金があるが、それを県外業者にも認めるという変更があった。県外業者が参入すると、補助金を目的とした、安かろう悪かろうの太陽光パネルが設置されるのでは無いかと懸念している。太陽光パネルは処分する際に産業廃棄物扱いとなり、20~30万円程度の費用を要する、それに対し対策を講じなければならないのではないかと。

また、太陽光パネルの設置条件を確認したが、潮風に弱い、冬は発電量が少ない等、適していない。他に補助金を使った方が良いのではないかと。

**市長:**

太陽光パネルは、これまで市内業者が設置した場合のみ補助対象としていたが、このたび、市外の業者が設置した場合でも補助対象とするよう条件の緩和を行った。この意図は、新築される方がハウスメーカーに注文を出す際、太陽光パネルの設置を検討するケースが多いためである。今までは、太陽光パネルの部分だけ補助対象外となっていたため、新築に掛かる負担を軽減するために、市外のハウスメーカーで建てる場合も補助対象になるように拡充した。地球温暖化を防ぐためにも太陽光パネルの設置を推進する必要があると考えている。

**参加者:**

住宅の応急修理制度が延長になったという話もあったが、自宅の片付けがまだの市民がいると思う。しかし、片付けゴミの回収については9月末の飯田を最後に終了となってしまふ。処分には今後1~2ヶ月くらい掛かってしまふのではないかと。

**市長:**

できるだけ対応していきたい。公費解体とそれに伴う廃棄物処理についても、環境省の補助を受けながら進めている。国としても費用を抑えたいという事情もあるため、環境省にも相談しながら進めなければならない。片付けゴミの持込は、鉢ヶ崎が終了し、市内では9月末に終了となる飯田港のみである。その後は、奥能登クリーン組合に持ち込んでいただくが、相当労力がかかる。できるだけ9月末までに片付けをしていただくよう、ご協力を願いたい。

**参加者:**

島の地に住んでいる。復興公営住宅候補地に再建意向がある場合どうするのか。

**市長:**

今回示した復興公営住宅候補地は、計画段階のものであり、今後調整して決めていく。再建意向がある箇所に無理に復興公営住宅を整備することはない。

**参加者:**

外浦も含め、観光掲示板等を確認している。観光地の看板や石碑等観光案内が被災に遭っているが、現状は復旧されていない。観光資源があるのに勿体ないと思うので対応願いたい。

**市長:**

その点に関しても注意して対応する。

**参加者:**

色々な意見が出ているが、まちづくり協議会ではこのような意見をまとめて、珠洲市に要望を出していく流れでよいのか。

**市長:**

仰るとおりである。ただし、復興公営住宅の場所と、道路についての意見は早めにご意見をいただきたい。特に復興公営住宅は、用地を測量し、取得後に設計、建築という流れになるため、約2年～2年半は掛かることが想定される。

**参加者:**

仮設住宅について、蛸島には6カ所あるが、全体の入居率が分かれば教えてほしい。また、蛸島の状況を見ると、少しずつ新築の家が建ってきているため、仮設住宅の入居率は減ってきているのでは無いかと思う。一方、仮設住宅に入りたくても入れない住民はいる。

また、蛸島から約200世帯が流出している。その方々が、一時的に蛸島に帰ってきた場合に使用できる休憩場所や宿泊施設として、余っている応急仮設住宅を活用できないか。

**市長:**

珠洲市全体で1,740戸の応急仮設住宅を整備しているが、空室は40戸程度しか無い。新築が完了した方から退去いただき、活用したいという思いはある。

また、応急仮設住宅にも皆さまそれぞれ希望する場所があり、入りたい住宅が空くまで入居を見送るという選択をされる方もいらっしゃるため、調整は難しい。最近では珠洲に移住してきた方もいらっしゃるため、そのような方のため応急仮設住宅を活用できないか、国と交渉している。

一時的な利用については目的外使用ということになり、国の要件を満たせば活用の許可ができるが、そのハードルがかなり高い。どんな方が入居されるのか、どのような合理的理由で入居されるのか、家賃はいくらにするのか、他に応急仮設住宅に入居できていない方は居ないのか等を明確に示す必要がある。この点については、条件に沿った形で入居できるように国と交渉していく。蛸島に帰ってきたので1泊使う等の活用は、需要はあるだろうが難しいように思う。

**参加者:**

元気の湯は復旧する予定はあるか。跡地に同じような機能を持った施設を整備することはできないのか。

**市長:**

被害が大きく、修繕、復旧不可能のため解体予定である。元気の湯や鉢ヶ崎りふれっしゅ村等については、どのような機能を取り戻して充実させていくかということを検討していく。

**参加者:**

復興公営住宅について、あまり議論できていない。予定地という文言は、ここに計画を進めていくという意味合いか。予定地は蛸島川の近くに設定しているが、水害を考えると位置を変えた方が良いのでは無いか。また、個人の感覚としては、鉢ヶ崎の方に候補地があっても良いのでは無いかと思う。

**市長:**

予定地1カ所と候補地3カ所という記載にしており、これから意見を聞いて決めていく予定である。予定地は一部、市の土地があったということが理由の一つにもなっている。ここに整備するという話が進めば、嵩上げ等浸水対策を講じ対応していく。鉢ヶ崎での整備については、まとまった土地の確保が難しい懸念はある。具体的な場所を提示いただければ、検討に入っていきたい。

**参加者:**

知人から駐車場を借りているのだが、恐らく、解体業者が重機運搬の際にコンクリの壁を壊してしまったような形跡を確認している。これは持ち主が修繕する必要があるのか、市に相談したら対応していただけるのか。なお、目撃者も情報が無く解体業者の特定はできていない。

**市長:**

本来であれば、解体業者に責任を取って貰うべきである。業者が特定できれば対応できると思うが、分からなければ難しい。場所は確認させていただく。

**参加者:**

川沿いの復興公営住宅は、測量が終わっていればどれくらい宅地を上げれば良いのか分かるのではないかな。

**珠洲市:**

現在、平面測量を行っている段階で、高さについては今後となる。測量が完了した段階で検討する。

**市長:**

蛸島町のまちづくり協議会も設立された。引き続き議論いただき、行政としても共に進めてまいりたい。繰り返しになるが、復興公営住宅について、なるべく早い段階でまとめて進めていきたいと考えている。皆さまの議論をお願いしたい。蛸島町の再生、復興に向けて皆さまと共に取り組み、必ず成し遂げたい。

以上